

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600941		
法人名	特定非営利活動法人 養老会		
事業所名	養老の泉パートⅡ		
所在地	豊後大野市大野町大原1186番地1		
自己評価作成日	平成27年2月10日	評価結果市町村受理日	平成27年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4472600941&SCD=320&PCD=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府 壱番館1F		
訪問調査日	平成27年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の入れ替わりが多く、昭和生まれの利用者が3分の2以上となっており、ADLがしっかりしており、行動範囲が多く、前年度と違って来た為、新たに出てきた課題の解決に向けての話し合いを職員全員で行って実践に向けて行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念「や、さ、し、く」を職員のケア規範として、ミーティング時に唱和し共有と実践に繋げています。地域密着型サービスの意義を考える中で、管理者と職員は常に意識して取り組み、地域行事の参加や事業所の祭りに地域の方を招待したり、月1回「喫茶の日」を開催し利用者と住民との交流を深めたり、家で使っていたスロープを寄付して頂いたり地域との相互関係の構築に努力されており、年々素晴らしい成果を出しています。又、職員間のチームワークの良さが、モチベーションの高さに表れ、現状と課題を分析しながらのケアの向上と、専門性を高めるための研修等スキルアップへ真摯に取り組んでいます。事業所は利用者の食事にこだわり、農業班(職員)が栽培した無農薬の野菜や米、天然調味料を使用した食事を提供し、利用者の栄養と健康を考えた取り組みは評価できる点です。利用者、家族の様々な思いの実現に向け、共に力を合わせ安心と信頼を実現しその人らしい暮らしを提供しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	G・H泉の理念「や・さ・し・く」を掲げ地域密着型を目指、朝のミーティング時に唱和しているが、毎日とは言えない。	法人の理念を基本に、利用者本位、チームワークを大切に、グループホームの理念が作成され重要事項説明書に記載されています。管理者と職員は日々の暮らしの中で、言葉かけや、トイレ誘導等で理念に添ったケアを実践しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣に回覧板を持って行ったり草きりや街頭指導に参加している。また、月に一度喫茶の日を設け、近所の方に来て頂いている。また、大きな行事には呼び掛けを行い交流を行っている。	地域の中で家族と一緒に支える事を理念として掲げており、地元の大野町体育祭観賞や夏祭、清掃活動等に参加し、地域交流に繋がっています。月1回の事業所主催「喫茶の日」では利用者も近隣の方も楽しみに待っており、お茶を飲みながら楽しい会話と交流が生まれています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のテーマとして、認知症についての勉強会の開催を掲げてはいるが、まだ、実施できていない。講師の方に今、お願いをしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の近況報告や事故報告を行っている。また、テーマに沿って意見やアドバイスを頂き、サービス向上に向けて努めている。	定例化した運営推進会議はメンバー構成も充実し、問題提起の場として活用され、サービス向上に反映されています。外部評価結果の説明や事業報告、ヒヤリハット報告等透明性のある運営体制であり、活発な意見交換が行われる双方向の会議である事が議事録に表れています。	議事録は職員会議等で検討し、職員の提案も取り入れる等、職員の運営推進会議に対する意識向上に繋げる事で、より発展した運営推進会議にされる事を期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設責任者が窓口となり、市やその他の関係者(民生委員、ボランティア)との連絡を密にし協力を仰いでいる。市の担当者にはメンバーとして参加して頂き事業所の実情を把握してもらっている。	運営推進会議には、毎回出席があり、情報交換及び相談やアドバイスを頂いています。行政担当窓口には、介護保険の申請等も含めて相談等で訪問し、担当者との連携と協力関係を築いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の勉強会で知識を深め職員間で共有し実践している。自由に外出する利用者もいるが鍵はかけず、見守りや、その他のかかわり方で対応している。安全確保の為、夜間のみcallマットを使用している利用者もいる。	「身体拘束排除の理念及び方針」をパンフレットに掲載しており、職員は研修等でその内容及び弊害を認識し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。新人職員には、マニュアル、資料を配布し指導を行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透に向けた取り組みを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の勉強会を行っているが、施設には対象者がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用者や家族に不安や疑問点などの話しを伺い、十分な説明を行い理解、納得をして頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や御家族からの要望を伺いその都度会議をもっている。また、運営推進会議に御家族の参加もあり、意見をいただいている。	面会時や電話連絡の際に、家族の意見、要望を聞くようにしており、遠慮なく話せる雰囲気を作っています。又、事業所で開催される行事(敬老会、花見、夏祭り等)に合わせて家族を招待し「家族会」を開催するとともに、年度末総会等で積極的な意見交換を行い、サービスに反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に面接を行って職員とのコミュニケーションに心掛けている。また、会議やミーティングにて職員の意見を聞いている。	管理者は年2回の個別面談と日々のふれあいの中で、職員の話聞く姿勢を常に持ち、思いの把握に努めています。毎月の会議ではテーマを設けて話し合い、日々のケアに関する意見交換を行い、職員同士の情報共有につなげています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に現場に出向き職員とのコミュニケーションをとり、現状の把握ができています。労働条件では、残業手当、休憩時間等の設備が整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会の必要な研修を行っている。また、資格を所得する為の研修やスキルアップ研修を勧めた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の「認知症ケア研究会」や「小規模ほむの井戸端会議」等に参加し、同業者との交流をしながら勉強会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前に自宅や病院に訪問させて頂き、本人とお会いし、不安な事や要望等について伺い、本人の思いに向き合えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、御家族からこれまでの経緯などの話を伺い、安心していただけるように対応している。また、日常の状況について連絡したりしていくこととお話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の前に本人や家族が見学にきたりして、本人や家族が必要としている支援を見極め対応している。また、家族や友人などのインフォーマル支援を利用していくような対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの能力に応じた作業を一緒に行う事によって共にする者同士の関係を築いている。(洗濯干し、洗濯物たため、食器洗い、掃除など)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションがとれる場を設けている。また、行事への参加や頻度の面会などの協力を頂き、共に支えあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出や本人との馴染みの方が時々逢いに来て下さる。また、馴染みの理容店で散髪に行きお茶をしている。	入所された後も、今迄の交友関係が継続できるように理解と協力を求め、馴染みの美容室や理髪店、デイサービスに出かけています。又、馴染みの職員が配置転換になっても、利用者との関係を大切に行事(喫茶の日)等で面会に訪れています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良い者同士、本人の状況を考慮し座席を考えている。また、ひとつ屋根の下で暮らしている仲間同士なんだと思えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者の家族の方が利用者がいないにもかかわらず施設に訪問してくれた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の言葉や表情、思いを把握するように努めている。また、困難の方には職員本位にならない様に心掛けている。	職員は利用者によく会話(世間話)を交わし、断片的であってもその裏にある思い等を推察しながら本人本位になるよう支援をしています。利用者や家族の意向等職員全員が関心をはらい、把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にこれまでの生活歴を御家族にお聞きしたり、フェイスシートに詳しく記入して頂き把握に努めている。入所後も情報があれば書留め職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活が平坦に終わらないようリズムや思いに合わせて出来る事を支援している。また、心身状態の変化にすばやく気づき現状にあった対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が原案を作成し、その後全職員で意見を出し合い、本プランを作成している。基本、3か月に1度のモニタリングを行い、必要時はカンファレンスを行い見直しを行っている。	基本的には3ヶ月毎の見直しと、利用者、家族の要望を聞き取り、モニタリングでは職員の気づきを出し合い介護計画を作成しています。利用者の状態変化に合わせて、家族と連携を密に取りながら、その都度介護計画の見直しを図っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に食事・水分・排泄等日々の暮らしの様子や本人の言葉や行動を記録している。それに基づき、情報を共有しチームワークで実践に生かしている。介護計画の見直しも職員皆で話し合い決定している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援を柔軟に対応している。また、利用者の体調不良等家族に連絡し報告をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容院に行きな話をしたり、お茶を飲まれたりされている。また、月1回喫茶の日や読み聞かせのボランティアの方がみえられている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が納得したかかりつけ医となっている。また、かかりつけ医と連携を取りながら適切な医療を受けられる体制をとっている。	事業所の協力医がかかりつけ医となる場合には、必ず利用者・家族の同意を得ています。薬の変更、専門医受診の報告等も家族や職員へ情報が伝わるように記録に残しており、適切な医療を受けられるように取り組まれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、利用者の体調や表情に気づき変化があったら報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の支援方法に関する情報を病院に提出している。入院中は病院、家族と連絡を取り合い、本人の状態を把握し、出来るだけ早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期、段階ごとに応じて家族、ドクター等を交えて話をし方向性を共有している。また、記録に留め職員と共有し今後の支援の統一を図っている。	利用者、家族の希望を受け入れ、医療関係者を交えた話し合いを持ち、方向性を共有しながらチームで終末に向けて支援が出来る様に取り組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行ってはいるが、定期的には行っていない。急変、事故発生時にはバイタルチェックを行い、看護師に状況を報告し指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や地域の方との協力を得て、夜間を設定し避難訓練を行った。、実際に地域の方が利用者の誘導をし避難場所まで誘導あいえ。	消防署、地域の方の協力もあり夜間を想定した避難訓練を行いマニュアル作成、実施後の問題点や消防署からのアドバイス等の記録作成も整っています。災害時の食料、飲料水、おむつ等の物品も準備しています。	マニュアル作成もできていますが文面だけではなく写真、動画等で記録に残すなど今後活かす記録の残し方に期待します。又、今年には年3回の避難訓練を予定しており今後の取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを確保するため、目立たずさりげない言葉かけをしたり自尊心を傷つけないような声かけをしているが、馴れ合い口調になりかねない言葉がある。その時は会議にて再度話し合いを行っている。	職員全員でプライバシーや尊厳についての研修会を行い理解を深めています。高齢な利用者の方に声をかける際は方言を使用していますが声のトーンを変えるなど、自尊心を傷つけないような声かけを行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傍に寄り添い、言葉かけを行い、思いや希望を聞いている。「帰りたい」と言われた方と自宅付近まで一緒に歩く事もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、またその時に体調に応じて希望を聞きながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛の乱れや髭剃りをさりげなく援助したり、入浴時の服を一緒に選んだりしている。入浴後に顔にローションをつけられている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々、厨房からおかずが来るが、職員と利用者が一緒にテーブルで食事をし、食後は一緒に下膳をしている。	毎食無農薬の食材が食卓に上がっています。器も朝・夕は陶器、昼は弁当箱で見た目も華やかに飾られており、食欲を注ぎます。利用者の座高に合わせたテーブルや椅子を使用し、安全に召し上がられるように取り組まれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人のケース記録表に1日の水分量や食事がわかる様に記録している。また、食欲低下のある方には、本人が食べたい物を食べて頂くように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	三度の食後には必ず口腔ケアを行っている。自分で出来る方にはして頂き口腔後の確認を行っている。また、1週間に一度義歯や歯ブラシの消毒をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間、布パンツにパットを使用されている方がいる。尿意の無い方、トイレの場所がわからない方にはさり気なく声かけをし誘導している。	トイレでの排泄、おむつ外しに積極的に取り組まれており夜間も布パンツで過ごされる方もいらっしゃいます。排泄パターンも記録から把握しており適切なトイレ誘導の声かけが行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂ってもらうような声かけを行ったり、植物繊維の多い食事、散歩や体操行なっている。それでも駄目な場合は粉寒天や下剤を服用し調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	概ね曜日を決めているが、拒否や状況に応じて入浴している。本人の希望に応じ湯船に浸かったりされ、シャワーに足浴を行っている。	利用者の様子を伺いながら希望に沿った入浴支援を行っています、以前はストーブを使用していましたが、今年から冷暖房を完備し、環境面において安心して入浴できるよう支援が行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の習慣のある方は居室で休まれてる。また、夜間居室で寝られない方には本人が寝たい所で寝て頂いている。(畳やソファー)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬中の用途用法紙を個別にファイルしている。薬の効果にも配慮するようにしている。(DM、浮腫)、薬の飲み忘れ、飲みこみたかどうかの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したりたたんだり、御鏡を丸めたり個々の生活歴を活かした支援をしている。また、気分転換に散歩をとりにいれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段はいろいろな様な場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人ひとり希望に応じて、チャリティショーや季節毎のドライブに行っている。また、個別でドライブに行く事もある。	観光スポットも沢山あり年間行事計画で、外出支援が頻繁に行われています。個別に、外出支援の取り組みが積極的に行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持されているが買物支援は出来てない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人への電話がいつでも出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度に気を配り、心地良い環境作りを行っている。また、季節の飾りや花があり、季節感を取り入れている。	天井が高く明るく開放感があります。大きな窓からは柔らかい日差しが差し込んでおりゆったりと穏やかに過ごせるよう工夫されています。居間からウッドデッキには自由に入り出し、プランターに咲いた花からは季節感も感じ取れ視覚からも居心地良く過ごせるように取り組まれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やウッドデッキに自由に入りが出来る。また、気の合った利用者同士が過ごせる様にソファを置いたり、独りでいられるように畳を敷いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家からの持ち込みのBOXや、家族写真、賞状、ぬいぐるみなどが飾られている。	施設の備え付けの家具がありますが、日頃から使い慣れたぬいぐるみの持ち込みや家族写真、施設職員から送られた誕生会の色紙など飾られており、居心地良く過ごせるように工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共に生活している中で、その人の出来る事、わかる事を理解し、自立に向けた支援をしている。トイレ時の立ち上がりや転倒のないようフアンテーブルを利用している。		